

「青年海外協力隊OB」

角一 大樹さん

KAKUICHI Taiki

「環境と仏教は似ている」
協力隊参加の動機

「実家が寺で、実は私もお坊さんなんです」
そう話すのは、今年1月にエルサルバドルから帰国したばかりの青年海外協力隊OB、角一大樹さん。現地では環境問題への意識が低い地域住民に対し、環境保全の大切さを伝える活動を行ってきた。角一さんは「環境と仏教は似ているもの」だと考えている。「因果応報」という言葉があります。どんな物事にも原因があり、それが現在や未来で結果につながっていくという意味です。環境問題について言えば、ごみが適切に処理されなかったことが原因で次第に環境が悪化し、結局は現在、そして未来の自分たちの生活に悪い結果が生じる。まさに「因果応報」というわけだ。

JICA Volunteer Story

PROFILE

1980年新潟県出身。2004年に大学院卒業後、金属表面加工を行う日本パーカラージング株式会社に入社し、生産技術・品質管理に携わる。退社後、愛媛県曹洞宗瑞應寺専門僧堂にて修行。2010年1月から2年間、青年海外協力隊（環境教育）としてエルサルバドルで活動。

「環境を汚したら、自分自身に返って来る。だから自分たちの手で守っていかなくてはならない。」

所構わずごみが捨てられているために、景観や衛生環境の悪化などの問題に直面しているエルサルバドル。これを食い止めるためにまず必要なのは、人々の意識改革。青年海外協力隊OBの角一大樹さんは環境教育を通じて、その輪を広げるために奮闘した。



「いろいろな種類のごみを分別できるか、挑戦してみよう」生徒たちが楽しく環境問題を学べるように工夫してきた角一さん

内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の研究を行っていた大学院生の時、青年海外協力隊に「環境教育」という新しい職種ができたことを知った角一さん。「中学生のころにポスターで協力隊を知ってから、カッコいいな」と憧れを持ち続けていました。その後就職した金属表面加工の会社でも排水管理などの公害対策に携わり、環境教育なら、自分の強みが環境問題の改善に役立つかもしれない。そう思い、応募を決めた。

そして見事に合格し、2010年1月、エルサルバドルに派遣された。赴任地は首都サンサルバドルから東へ100キロほどのベルリン市。防災や環境保全に取り組む同市役所環境課に配属され、市内の学校での環境教育や、ごみの分別回収・リサイクルの啓発活動を行うのが角一さんの仕事だった。

エルサルバドルでは、ごみをはじめ環境問題はなおざりにされているという。「環境を守ることが生計向上に直結するわけではないため、人々の関心が薄いのが現状でした」と角一さん。ごみはごみ箱に捨てるといった日本では当たり前の習慣がエルサルバドルにはなく、ポイ捨てによる環境汚染が深刻だったのだ。「昔は自然に還るものがごみだったのでよかつたのかもしれない。でも今は、プラスチック製品など自然に還らない物が多く、そのことを人々に理解してもらう必要があります」。

「廃油せっけんがきっかけで人々の意識に変化が」

そこで重点を置いて取り組んだのが環境教育だ。1年目は、市内2カ所の小中学校を月に一度訪問し、「環境とは何か」から始まり、水質汚染、大気汚染、リサイクル、3R※といったテーマで授業を進めた角一さん。生徒たちが理解しやすいように絵や図を多用し、ゲームやクイズを取り入れて興味を持って



a.ある授業の様子。参加型のゲームを取り入れ、楽しみながら森林破壊の現状を知ってもらう
b.小学校教諭の隊員が活動する小中学校で合同の環境教育を行うこともあった。この日は森林保護の大切さを伝える人形劇を披露
c.角一さんの授業を参考に自分たちで資料を作り、他のクラスに環境と資源の循環について図や写真を使いながら発表する生徒たち
d.角一さんは女性グループと連携して活動。その一つが、廃油を使ったせっけん作りの講習会。地域の人々に大好評だった

もらえるよう工夫した。「活動を始めて半年が過ぎたころ、学校の先生に突然呼ばれて行くと、うれしい驚きがありました。私の授業を受けた生徒が資料を作り、他のクラスで自主的に発表会を行っていたのです。自分の授業内容がちゃんと伝わっているか心配だったのでモチベーションが上がりました」と振り返る。2年目からは全クラスを対象に、しかも理科の先生と共同で授業を展開できるようになった。「自分が任期を終えて帰った後も先生たちが授業を継続できるよう、先生向けの講習会を行ったり、授業内容のサンプル集を作成しました」。

一方、地域住民に対しては、再利用できるアルミなどの回収活動を行う地元的女性グループと連携し、リサイクルの推進にも取り組んだ。特に好評だったのが、廃油を利用したせっけんや再生紙作りの講習会だ。「これまでは捨てていたものが資源になるなんて初めて知った」。「廃油を再利用できるなんて思いつかなかったが、やり方を知れば自分たちで簡単にできるんだ」。参加した住民からそんな声が上がると、評判は口づつて広まっていった。そして、地元メディアにも取り上げられると、他地域の学校やコミュニティからも講習会の開催を依頼されるようになった。「ちよつとした体験から、環境問題は自分たちで改善できる」と気付いてもらったので「と角一さんは話す」。

さらに、エルサルバドルで活動する他の環境教育隊員や他職種の隊員と共同で環境教育教材を作成した。森林保護やごみ問題が題材の紙芝居や、廃油せっけんの作り方などをまとめた冊子を作り、市役所職員、学校の先生、NGO関係者などに配布。「彼らの今後の活動に役立ててもらえれば」と考えている。角一さんが地道に続けてきた活動が、こうしてエルサルバドルの人々に受け入れられ、そして今度は地元の人たちの手によって広められようとしている。

※Reduce(ごみの発生抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)の略称。